

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	「中学校における人権教育推進の在り方を探る」 ～日本一温かな学校を目指して～
----------	---

○調査研究のテーマを設定した目的

本校の生徒は、明るく素直であり、授業や行事においても自主性や積極性を発揮し、仲間とともに協力して活動できる。一方で、自分の思いや考えを相手に伝えることが苦手な生徒もあり、また小学校時代からの人間関係のままであることが楽であると捉えている生徒も多いことから、中学校に入学してから新たな関係を構築できずにいることが多い。さらに、コロナ禍における生活が続いていたため、生徒一人一人の自尊感情の低下を懸念している。

学習面においては、落ち着いた態度で授業に臨み、与えられた課題に対して一生懸命取り組んでいる一方、主体的に学習に取り組む態度に課題がある。また、学習意欲や基礎学力の低さから学習に消極的な態度の生徒もいるなど、自分に自信がもてず自尊感情の低下につながっている生徒も少なくない。

そこで、本校において取り組んでいる学習を「人権教育」という大きなカテゴリーとして据え、各活動をつなげ組織的に実践していくことにより、自他の大切さを認識するとともに、自尊感情や自己有用感を高め、人権意識の高揚につなげていくことを目的として、調査研究のテーマを設定した。

○調査研究の概要

- ア 学校の教育全体を通じた人権教育の推進
 - (ア) 人権教育の充実を図る教育課程の編成
 - (イ) 生徒一人一人を大切にした生徒指導
- イ 家庭、地域社会との連携
- ウ 関係協力機関との連携、協力

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

幌延町立幌延中学校

○これまでの研究指定等の状況

令和4年度人権教育研究指定校事業「研究指定校」

○学級数

5学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数（R.6.2.29）

全児童数：52人

○URL

<https://www.town.horonobe.lg.jp/horonobe-j/>

○指定理由

指定を予定する研究指定校は、令和4年度に本事業の研究指定校として、各教科の授業や総合的な学習の時間、学校行事等において、それぞれの目的や目標に合わせた形でコロナ禍においてもできる実践を積み上げてきた。今回、これらの実践的な取組を「人権教育推進の在り方」としてまとめ、教科等横断的な視点に立ち、各教科の授業や総合的な学習の時間や体験活動等における効果的な教育課程の改善、編成に取り組むこととしている。

また、北海道の大きな「人権課題」である「アイヌの人々」に係る取組については、修学旅行におけるウポポイの見学を位置付けて4年目になる。見学の事前、事後に国立アイヌ民族博物館の学芸員を講師としてオンライン学習を行い、当日、生徒は高い課題意識をもって見学している実績があり、各教科等の授業における関係協力機関等との連携の在り方や取組等についても他校への波及が期待できる。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	◎
⑦外国人	
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

ア 現状の分析と課題

- ・本校の生徒は明るく素直で思いやりがあり、授業や各種行事、生徒会活動に一生懸命取り組む姿勢が見られる。
- ・一方で、与えられた課題には前向きに取り組むが、自ら課題を見だし解決していくことには依然として課題があり、指示を待っている生徒が少なくない。
- ・また、本町には高等学校がないことから、地域における中学生に対する期待が大きいため、生徒が主体的に取り組む態度や地域社会に貢献できる能力を育むことが本校の役割である。

イ 調査研究の内容

「ア 現状の分析と課題」を踏まえ、自己有用感や人権意識の醸成を図ることを目的として、次の取組を行うことにより、生徒が主体的に取り組む態度や地域社会に貢献できる能力を身に付けられるようにする。

(ア) 各教科等における取組

- ・人権に関する単元や題材での指導
- ・総合的な学習の時間における探究活動と関連させた学習

(イ) 生徒会を中心とした取組

- ・特別活動での縦割り活動(挨拶運動、ボランティア活動など)
- ・小中合同のクリーン作戦や新入生体験入学、学校間交流 など

(ウ) 関係機関や外部講師と連携・協力を図った取組

幌延町、ウポポイ、障害者福祉施設、高齢者福祉施設、人権擁護委員会、警察署、消防署、病院、大学、JICA 北海道等との連携・協力を図った各種活動

(エ) 各種調査

※ (ア) や (イ) の活動を展開するに当たって、各教科等においては、仲間とともに主体的に学び合い、高め合う学習活動を据えていくこととしている。

○実施方法

(1) イの調査内容 (ア) (イ) (ウ) (エ) について、次の4点に留意し、取組を行った。

- ・人権教育に係る取組を通して、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、指導に係る体系化を図る。
- ・外部機関と積極的に連携を図り、ボランティア活動や体験学習等をとおして、自尊感情の醸成や他者との受容的・共感的な人間関係の形成を目指すなど、主体的に取り組む態度と地域社会に貢献できる能力を身に付けさせる。
- ・学校の教育活動全般を鑑み、教科等横断的な視点で3年間を見据えた意図的・計画的

な取組を通して、人権教育の推進に係る工夫・改善に努める。

・各種調査等の分析により、生徒の人権に対する意識の実態と変容を把握する。

ア 各教科等における取組

(ア) 「アイヌの人々」の人権問題

「アイヌの人々」の人権問題については、社会科で基本的人権に係る内容について学習するとともに、アイヌの人々の文化に対する関心が高まるよう、教室に書籍を置くとともに、地域におけるアイヌの人々の文化を紹介するなど、身近にある問題として意識できるようにした。

(イ) 「性的指向、性自認」の人権問題

「性的指向、性自認」については、6月に宝塚大学の日高教授を招聘し、教職員向けの研修会を実施し理解を深めた上で、技術・家庭科の衣生活の学習で制服を取り上げるなど、LGBTQと関連させた授業を行った。また、事前に生徒にアンケートを取るなど、特別活動に位置付けている「性に関する指導」の中で、養護教諭が中心となって授業を行った。

イ 生徒会を中心とした取組

(ア) 縦割り班活動

学年対抗から学校全体を縦割りにする活動を中心に変更して、いろいろなことにチャレンジしよう、いろいろなことを楽しもうという生徒会執行局の方針の下、縦割り班活動を大切にしている。活動内容としては、生活学習常任委員会を中心とした定期的な放課後学習会や挨拶運動、異学年交流の中心的な活動となっている体育大会や学校祭、地域の協力が不可欠な資源回収など、上級生はこれまでの学習成果を発揮する場として、下級生は頼りになる先輩の姿を見ながら自然と思いやる心について考える場としての機会となった。

(イ) 学校間交流

春先に行う小中合同のクリーン作戦、新入生体験入学、小学校の生活科の学習で学校探検として来校する2年生と中学1年生との交流、令和9年度開校予定の小中一貫校に係る児童会生徒会の意見交換、和歌山県印南町立切目中学校との生徒会交流、附属旭川中学校との合同授業など生徒間交流を定期的に行ってきた。

ウ 関係機関や外部講師と連携・協力を図った取組

(ア) 長島愛生園歴史館の学芸員との連携する「ハンセン病患者等」の理解

岡山県にある長島愛生園歴史館の田村朋久主任学芸員に来校してもらい、「はじめて学ぶハンセン病問題」と題して講話を行った。新型コロナウイルス感染症とも関連付け、感染症に対する差別や偏見についての理解を深めた。

(イ) 学芸員との連携を大切にした国立アイヌ民族博物館の見学

4年前の修学旅行から白老町のウポポイにある国立アイヌ民族博物館の学芸員との連携を大切にした学習を展開している。事前にオンラインで学習を行い、当日は「ア

イヌの人々がどんな歴史や文化の中で生きてきたのであろう、そして生きているのだろうか」という視点で見学し、振り返りとして「私はどんな文化の中で生きているのだろうか」と自分なりの考えをまとめた。事後には、再びオンラインでアイヌの人々とかかわりが深い人物の「生き方」について振り返り、これから自分自身が歩いていく多様な文化が共存する人生について、「どんな価値や生き方、文化を大切にしていけるか」を自分なりの考えをまとめた。

エ 各種調査

年間計画に基づき、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙を活用した生活アンケート、いじめ調査アンケート、Q-Uアンケート等の分析を校内研修で行い、教職員で情報共有した上で、教育相談週間を設けるなど、生徒の心に寄り添う活動等に生かすよう取り組んできた。

また、目標をもって取り組んだことやその成果と課題を記録し、生徒自身が自分なりの成長を実感できるようにしたり、見通しをもって各種活動に前向きに取り組むことができるようにしたりするため、オンライン手帳（個人によっては紙）を効果的に生かす取り組みを行った。

4. 検証・評価・改善・普及

ア 成果・効果

- ・教科等横断的な視点で人権教育を行うことにより、生徒の主体的に学習に取り組む態度や地域社会に貢献できる資質・能力の育成に資することが概ねできた。
- ・外部機関と積極的に連携を図ることにより、体験活動等を通して、自尊感情の醸成や他者との受容的・共感的な人間関係について学ぶことができた。

イ 検証・評価

(ア) 各種調査等から見た生徒の意識の変容

【知識的側面】

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒の割合が100%（増減なし）になった。
- ・「自分や他者の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている」と回答した生徒の割合が58.6%（0.3ポイント増）になった。

【価値・態度的側面】

- ・「困っている人がいたら助けてあげることができる」と回答した生徒の割合が93.1%（3.5ポイント増）になった。
- ・「困難な問題にぶつかっても、自分なりに解決しようと思う」と回答した生徒の割合が89.7%（増減なし）になった。

【技能的側面】

- ・「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、扱うことができる」と回答した生徒の割合が96.5%（7.1ポイント増）になった。
- ・「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答した生徒の割合が100%（6.8ポイント増）になった。

(イ) 青少年健全育成連絡協議会や幌延町学校運営協議会等における意見や評価

12月の青少年健全育成連絡協議会において実施の状況について報告した。委員からは、「子どもたちの自由意思を尊重してくれる機会が少なくなったように思う。そういう意味でも地域とのかかわりをもつ機会や活動は大切である。」「先生と子どもの関係も昔と変わった。関わりが浅くなったように思う。」といった意見があった。

また、12月の学校評価においては、「1年生の頃よりも自分たちでやらなければならないことが増えて、責任感や自主性が育っているように思う。」「取り組んでみたいことや進路、将来のことを口にするようになってきている。選択肢を増やせるように学力だけでなく、いろいろなことに向上心をもってもらいたい。」といった意見があった。

3月4日開催の学校運営協議会において、実施状況の報告を行う。

ウ 改善

各種調査結果等から、生徒一人一人が「日本一温かな学校」を意識しながら、自他を大切にす心や互いの考えを尊重し合うこと、困っているときには自然と支え合うことを意識するようになってきた。今後は、改めて生徒に身に付けたい資質・能力を明確にし、教職員と生徒、保護者が目的や目標を共有しながら、効果ある取組の体系化を図っていききたい。

エ 普及の仕方

- ・12月13日、人権教育研究指定校事業に係る研究成果報告会を開催した。

※2年間の取組の成果を「研究成果報告書」として参加者に提供した。

- ・本校のWebページ等に掲載するとともに、各学校における人権教育の推進が一層取り組みやすくなるよう実践に係るデータをクラウド上に保存するなど広く情報提供する（令和6年3～4月）。

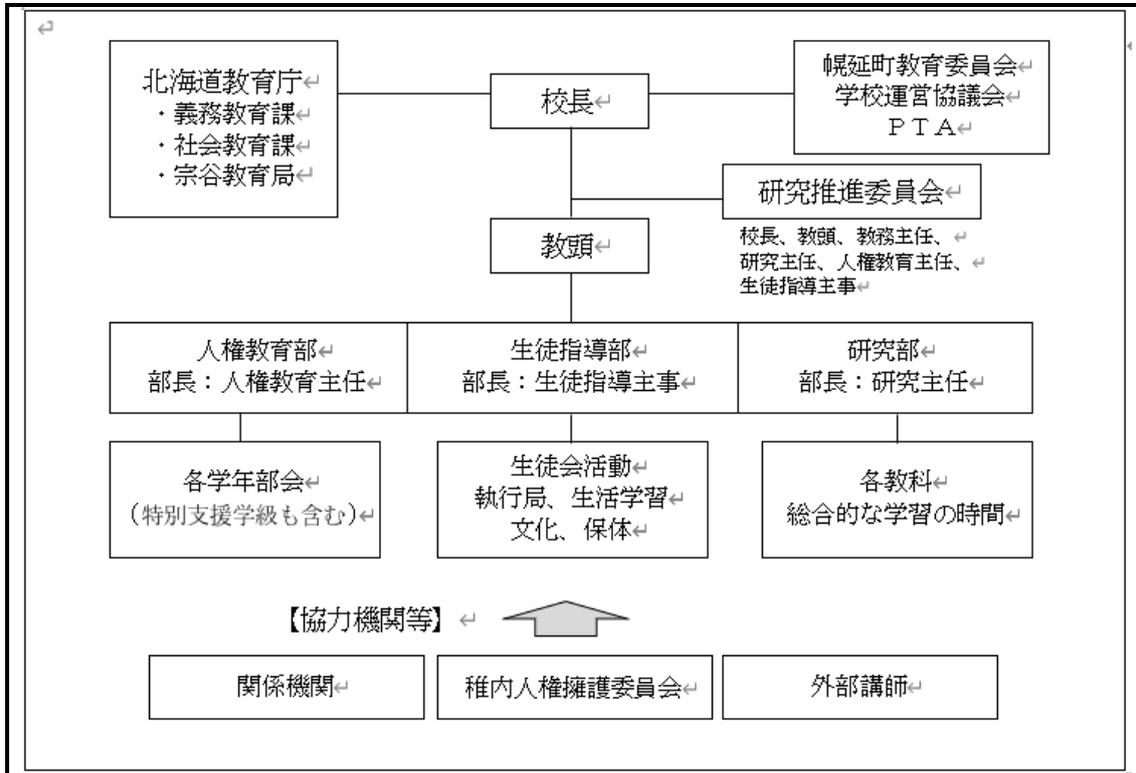
※宗谷教育研修センターにおけるHP開設に伴い、学校研究に係る要請に基づき速やかに情報提供する。

5. 人権教育に係る年間指導計画

時 期	対象学年	内 容	備 考
4月10日	生徒会	挨拶運動 ※4/10～4/14	
4月 下旬	全	生活アンケート① 子ども理解支援ツール「ほっと」①	※全国調査の生徒 質問紙の活用
4月28日	小中全	小中合同クリーン作戦 (小学生の下校時に合わせた取組)	通学路の掃除
5月 9日	3	JICA 北海道訪問 (修学旅行) ※事前事後に.オンライン学習あり	JICA 北海道職員 国際交流員ほか
5月11日	3	ウポポイ訪問 (修学旅行) ※事前事後にオンライン学習あり	国立アイヌ民族博 物館学芸員
5月19日	全	資源回収	P T A協力
5月31日	全	いじめ調査アンケート①	
6月 6日	全	Q-U①	
6月 6日	全	教育相談週間 ※6/6～6/13	
6月 9日	教職員	小中交流会 (授業参観、協議)	小学校教員来校
6月19日	教職員	L G B T Qについて	宝塚大学日高教授
6月22日	全	避難訓練 (火災)	消防署員
6月23日	全	ふれあいの花 (プランターづくり)	幌延町保護司会
7月15日	全	幌延町神社祭 (地域行事)	
夏休み中	全	絆づくりコンクール (メッセージ、ポスターの取組)	道教委主催
8月28日	生徒会	挨拶運動 (登校時) ※8/28～9/1	
9月 1日	全	1日防災学校	消防署員ほか
9月4・5日	教職員	先進校視察 (広島市) 阿戸小中一貫教育校、戸山小中一貫教育校	
9月 8日	選抜	学級弁論発表会	
9月12日	2	人権教室 「初めて学ぶハンセン病問題」	長島愛生園歴史館 主任学芸員 田村 朋久 氏
10月 1日	全	学校祭 (おもてなしの取組)	
10月 上旬	全	いじめ調査アンケート②	
10月10日	全	Q-U②	
10月16～20日	全	教育相談週間	

10月23日	全・小6	令和6年度入学予定者体験入学	
10月23日	全	性に関する指導 ※1年:10/23、2年:10/24、3年:10/26	担任及び養護教諭
10月25日	全	ふれあいの花(片付け)	
10月27日	生徒会	新入生体験入学	
11月	選抜	人権作文コンクールへの出品	人権擁護委員会
11月1日	教職員	小中交流会(授業参観、協議)	中学校教員→小へ
11月6日	3	幌延町こども議会に係る出前授業	幌延町議会事務局
11月9日	3	幌延町こども議会における一般質問	
11月26日	P T A 一部生徒	情報リテラシーに係る講演会	株式会社グリー 小木曾 健 氏
11月27日	1	人権教室「いじめ」	人権擁護委員
12月1日	3	人権教室「デートDV」	人権擁護委員
12月7日	生徒会	どさんこ☆子ども地区会議への参加	宗谷教育局主催
12~2月	全	自殺予防プログラムの実施	
12月14日	1	第2学年児童との触れ合い交流	幌延小学校
12月15日	教職員	人権教育研究指定校事業_成果報告会	
1月26日	全	生活アンケート② 子ども理解支援ツール「ほっと」②	
1月29日	生徒会	挨拶運動(登校時)※1/29~2/2	
2月14、19日	教職員	小学校への乗り入れ授業(国・数・理・音)	
2月20日	吹奏楽部	こども園訪問コンサート	認定こども園
2月21日	3 教職員	持続可能な社会の創り手となる子どもたちへの講話及び子どもたちを支える教職員へのための探究学習に係る研修	千葉県浦安市立 美浜中学校教諭 川久保 周 氏
2月22日	生徒会	他校生徒会交流(切目中)	オンライン
2月22日	教職員	先進校視察(札幌市) 札幌聖心女子学院中学校・高等学校	

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



成果報告

時代の変化に即した取組

アイヌの人々

- ・人として、アイヌとして、大切にしていること
 - ・自分はどんな人間？どう生きてきた？どう生きていく？
 - ・どんな文化の中で生きているか？
- 歴史（人権）と文化（興味）に触れ、
自分や他者の人生観を見つめる！



成果報告

時代の変化に即した取組

LGBTQ 学習・研修

- ・性の多様性について考える
 - ・札幌市男女共同参画センターに訪問、大学教授と対談
 - ・町のこども議会で提言（町全体での取り組みを求める）
- 町政としての啓発活動へのつながり、個の尊重の大切さ！



成果報告

外部人材、関係機関の活用

初めて学ぶ「ハンセン病問題」

- ・長島愛生園歴史館（療養所）の学芸員の講師派遣
 - ・歴史の変遷と当時の人々の心情に触れる
- ハンセン病患者等、人権問題について意識する生徒の割合30%増！
→新型コロナウイルス感染症の差別に関わる言動との関連に気づく！



成果報告

時代の変化に即した取組

SDGsワークショップ

- ・経済、環境、社会をターゲットに、参加者全員で世界を創る
 - ・異学年で班編成し、異国（仮想）を想定した関わり方
 - ・地域住民や保護者と一緒に、世界の在り方を考える
- グローバルな視点で発展を考え、
自国から世界のために行動する！



成果報告

外部人材、関係機関の活用

人権擁護委員による人権教室

- 中学3年「デートDV」数パターンのロールプレイを実施
 - 中学1年「いじめ」 いじめ発生の構図を学習
- 表現方法によって、受け取り方の難しさや違いを知る。
思いやりの心をもって、双方の合意形成の図り方を学ぶ！



「中学生サミット」で取り組んだ内容



17グループに分かれて協議し、CM劇を作っています。広告クリエイターの方からアドバイスをいただきながら、活動に取り組みました。

成果報告

外部人材、関係機関の活用

避難訓練

- 1日防災学校の計画（各教科の取組、着衣泳、非常食）
- 町内で想定される災害に合わせた避難経路
- 家族とマイタイムラインに取り組み、地域の防災を考える。
→ **自助の成長、共助の意識、公助の活用！**



成果報告

外部人材、関係機関の活用

資源回収・クリーン作戦

- 地域住民の一員であること
- 地域や社会のためにできることを考える
→ **介助、助け合い等を身近なこととして考える割合100%に！**
→ **中学生が小学生を牽引する存在に、地域に頼られる存在に！**



成果報告

外部人材、関係機関の活用

「声とことば」のワークショップ

- ・音声言語指導者から学ぶ
 - ・姿勢や呼吸の基礎、母音調音法や子音調音法などの技法
 - ・合唱活動、学習活動、望ましい「話す」雰囲気の醸成
- 姿勢と響きのある声の意識をする生徒の割合100%に！



成果報告

教科等横断的、縦断的な学び

インターネットによる人権侵害

- ・中学3年 技術科（情報の技術）
- ・社会3年 社会科（公民）
- ・全学年 道徳科

障害者、高齢者、幼児の理解

- ・中学1年 技術・家庭科〔家庭分野〕（家庭生活と地域とのかかわり）
- ・中学3年 技術・家庭科〔家庭分野〕（幼児の生活と家族）
- ・全学年 道徳科
- ・全学年 保健体育科（体育理論、パラスポーツ）

成果報告

教科等横断的、縦断的な学び

人権の花

- ・ 全学年 特別活動（春季、秋季）



JICA北海道訪問

- ・ 3学年 総合的な学習の時間（修学旅行）



ウポポイ訪問

- ・ 3学年 総合的な学習の時間（修学旅行）

